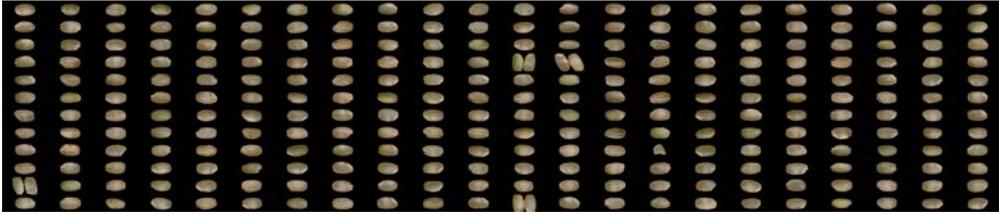


令和元年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 生物資源学研究科
氏 名 関谷 信人

活動テーマ	三重大学オリジナル酒米品種「弓形穂」を活用した多気町地酒ブランド作りへの貢献
実施期間	平成31年4月 ～ 令和2年3月
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>【植物検体分析】</p> <p>米粒の充実度（登熟歩合）を部位別（一次枝梗と二次枝梗）に計測し、改良施肥法が「弓形穂」の米粒品質に与える影響を考察した。茎葉に蓄積したデンプン・糖の計測は現在も継続中で、終了次第、両成分の蓄積と米粒品質の関係を考察する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>粳摺り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>粒重計測</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>粒径および粒の充実度計測</p> </div> </div> <p>【消費者調査】</p> <p>演習授業「グローバル資源利用学チュートリアル」の受講生（学部2年生）が、農事組合法人四疋田営農組合（以下、営農組合）と河武醸造株式会社（以下、河武醸造）を訪問し、「弓形穂」の栽培や「弓形穂」で醸造した清酒の販売における課題を聞き取り調査した。</p>



営農組合への聞き取り



「弓形穂」の育苗視察



河武醸造への聞き取り



酒蔵視察

営農組合と河武醸造から聞き取った課題の解決策を模索するため、大学祭に来場した消費者 211 名を対象に消費行動を調査した。調査結果から、課題に関連する推測統計量を導出し、解決策を考察した。営農組合と河武醸造を「統計分析報告会」に招待し、考察を報告して意見を交換した。



消費者調査



統計分析報告会

【成果発表会】

新型コロナウイルス対策で正式な成果発表会を開催することはできなかったが、営農組合と河武醸造に対して、個別に活動の成果を報告した。

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

「弓形穂」から醸造した清酒は、国内はもとより海外でも人気を得始め、河武醸造は益々増産への意欲を強くしている。その意気込みに応え、営農組合も栽培面積を拡大することで合意した。また、有限会社みよしや酒店（伊勢市）の発案で、三重県立明野高校（伊勢市）が「弓形穂」を栽培し、河武醸造が清酒に醸造するプロジェクトが発足した。三重大学は原種の提供のみならず、これまでの研究で蓄積してきた栽培に関する情報を明野高校と共有することで合意している。本活動が当初から目標としていた複数年の活動による他地域への広がりが来年度から実現することとなる。

(3) 共同実施者との連携状況
良好な連携を維持している。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり
報告者の指導する学部4年生が本活動の成果を基に卒業論文を執筆した。また、修士課程1年生も本活動を基に研究を継続している。前述の通り、本活動を基にして生物資源学部資源循環学科グローバル資源利用学教育コースの演習授業を展開している。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）
特になし。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について
営農組合が改良施肥法の一部を採用した。営農組合による「弓形穂」の栽培面積が増加し、河武醸造への原料供給量も増加した。本活動に対する県内での認知度が上昇し、新たなプロジェクトが発足した。本活動を活用した卒業研究や演習授業を通じて学生の調査・分析能力が飛躍的に向上した。